



地理の写真館

広大な国土 カナダ

日本の約26倍の広大な国土をもつカナダには、多種多様な民族が暮らしている。10の州と3つの準州から成るカナダには、広大な国土であるがゆえ、州ごとに独自の産業や文化が成り立っている。

ケベック州は準州を除くとカナダ最大の州で、日本の3.6倍もの広さとなる。州の陸地面積の約60%をカナダ楕状地が占め、世界最古の山岳地帯としても注目されている。州最大の都市はオリンピックでも有名なモントリオールであるが、州都はケベックシティとなる。

ケベックシティは、ヌーベル・フランス（新しいフランス）と呼ばれていた地をフランス植民地として確立すべく、サミュエル・ド・シャンプランが力を注いだ都市である。1608年にはヌーベル・フランスの首都とされた歴史をもつ。こうした歴史的背景のため、ケベック州はフランス人開拓による独自の文化が形成されている。フランス語とカトリック信仰（写真①：カトリックの結婚式の様子）が1744年のケベック法によって保護され、1977年にはフランス語をケベック州で唯一の公用語とするフランス語憲章を制定している。あらゆる看板や掲示はフランス語でなくてはならず、教育についても同様である（写真②）。

ケベックシティは、古くから毛皮の交易地として発展し

た北米でもっとも古い都市のひとつで、現在旧市街は世界文化遺産に登録されている。セントローレンス川の河岸段丘の下位面に、ロワータウンと呼ばれる町が川沿いにつくられ、上位面には城壁で囲まれた旧市街が立地している。城壁の外側の新市街とは明確に分かれている（写真③）。セントローレンス川を見下ろす高台には、旧市街のシンボルとなるシャトー・フロントナックがある。フランス植民地時代の総督の名前にちなんでおり、現在はホテルとして営業している（写真④）。

ケベックとは、先住民の言葉で「川が狭まる地」の意味で、高台からは対岸のレヴィの町がはっきりと確認できるほど川幅が狭まっている。対岸とは、大型のフェリーが定期的に往き来しており、今でも水運は住民の足となっている。有名なメイプルシロップは、セントローレンス川の中州にあたるオルレアン島で伝統的な生産が行われている。今回は、時期が合わず見学することはできなかった。

近年の州住民投票でも多くの人がカナダ連邦からの独立を望んでいることが明らかになり、今後も民族問題の火種を抱え続けていくことだろう。（東京都高校教諭）

写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。海外巡検などで撮影された地理的写真を、資料編集部「地理・地図資料」係までお送りください。